

日工組通信

第32回

5月に開かれた日本遊技機工業組合（日工組）の総会で、筒井公久氏（株式会社SANKYO代表取締役社長）が新理事長に選任された。日工組はパチンコメーカー36社が集まり、パチンコ機について、あるいはパチンコ業界について、さまざまな取り決めを行う団体だ。その舵取り役を担う筒井公久氏に、今月と来月の2回にわたり、話を聞く。

理事長に就任した今、何をしましたか。とにかく副理事長としての4年の間に、いろいろありましたが、

「現在、パチンコの参加人口は減少し、市場は縮小しています。パチンコ・パチスロの貸玉料金の年間総額が、苦勞しながら、あるいはお叱りを受けるながら、執行部が一体となって活動してきました。今となっては笑い話かもしれませんが、当時はいくつもの胃の痛い思いもしましたよ。」

新理事長に聞く 前編

「たしかに、ここ数年、パチンコには大きな変化が起きています。筒井 ます、2年前に起きた「検定機と性能が異なる可能性がある遊技機」の73万台弱の回収・撤去という問題がありました。これは3段階に分けて当該機種を公表し、昨年12月末で無事、回収撤去が終了しました。それから他の団体のご理解・ご協力を得て、業界を挙げての遊技機の新たな流通制度が昨年の4月1日からスタートしました。数え上げればキリがないくらい、時間と努力



日本遊技機工業組合
筒井公久 理事長

シンプルで 分かりやすいパチンコで 参加人口減少に歯止めを

は、1ヶ月の30兆円から23兆円に、参加人口はピーク時の3000万人から1070万人に、それぞれ減っています。我々、対処する努力、いわゆるパチンコに取り組んでは、消費金額よりも、参入する休層の方々に戻って、だのがそのひとつです。遊加入口の減少率の方が高い状況を引きやすく、遊



当たりやすく、手軽に楽しめる
新しいジャンルも登場

も増えていくって、ただでいいです。今後は、楽しんでいただくこともうたが第一です。さらに、安心・安全。当りのハラハラドキドキに遊べる。感覚を体験していただき、めを取り組んでみたいと思っ、次々と、たたくような流れを作っ、新しいパチンコの回復は望まれないと思、セプトを打っています。当然、適度な射幸性も重要なコンセプトのひとつですが、射幸性だけではなく、楽しんでいただけたら、機械作り、バラエティーあふれる機械作り、パチンコ・パチスロ業界全体として最も重要視されている課題が「依存問題」である。

「二丸となり、射幸性に頼らない 多様な機種の開発に尽力していく」

日本遊技機工業組合が5月29日、都内で第57回通常総会を開催。ここで新役員が選出され、総会後行われた懇親会の席で筒井公久新理事長が抱負を語った。



の対策案を
実施して
いただき
たい。日
工組の後
の取り組
みには注
目してい
るよう
だ。
射幸性を
抑制する
という方向
性
は、一方
で、

「これに対し相談を電話する。衆参両院議員や関係プレイヤーにとっては、最大の魅力が失われる。サポート・ネットワークの来賓があった中、警りに繋がる。ホールクの支援と対策強化。警察生活安全局の小柳側にとってもイコールは進んでいるが、メーカー・保安課長も「娯楽顧客減少を招くこと」を束ねる。日工組として、今後の方向性は非常に重要。決意も新たに日工組の新体制がスタート。

「昨年、約40年ぶりに大切なのは、3000万台手打ち式のパチンコ機を発売したメーカーもありました。筒井 私たちの若い頃は、カートの創意工夫や知恵の出した機械を市場に投入、出し合という部分で、価値が非常に重要になってくると思っております。『CR天下1閃』は、会社帰りに短時間で遊びたいというニーズを掘り起こしました。今のパチンコは「わかり

「大切なのは、
減ったという事実を、
我々が自覚すること」
3000万人が1070万人まで

（次回は「ギャンブル等依存問題について伺います」）